

(別紙様式2)

学生等評価の改善状況報告書

平成 27 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

人文社会科学部長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 26 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
時間割に関して改善要求があるので、時間割作成の際に対象学年を同じくする科目の開講枠が重なることがないように留意する。また特定の曜日は時間帯に専門科目が集中しないように、教務委員会から各学科に注意する。
実施時期（予定を含む）： （予定を含む）：平成 25 年秋（翌年度時間割作成時）
改善状況
社会学科：第一段階として教員免許の教科に関する必修科目、学芸員科目、1 年生科目が重ならないよう調整し、さらに、コース内での重複を避ける調整した。対象学年の重複はかなり改善されていると考える。
言語文化学科：特に 1 年生向け科目については、開講科目一覧・授業時間割作成に着手する前に各コース間であらかじめ打ち合わせを行い、授業科目の開講時間帯が重複しないよう配慮した。またその他の学年についても、学部共通専門科目や学科必修科目の開講時間帯が、同じ対象年次の学科専門科目の開講時間帯と重ならないよう努めた。
法学科：（昼間）学部懇談会において、一部科目の対象学年の重複が指摘されたため、開講枠に重複がないよう時間割を作成した。火曜日、水曜日への専門科目の集中は避けるようにしたが、当該担当教員の都合等により、集中が避けられなかった曜日もある（後期・水曜日）。（夜間）対象学年の重複が、コマ数との関係から避けられないため、専門科目のない空きコ

マをなくすようにし、特定の曜日・時間帯における専門科目の集中を避けた。

経済学科：平成 27 年度時間割作成にあたって、木曜日午後を除く開講可能枠 22 枠のうち、前期で 21 枠、後期で 22 枠とほぼ開講可能枠をすべて使うようにした。ただし、開講科目数が多いため、22 枠中 6 枠（前期・後期とも）は対象学年が重複した科目を配置せざるをえなかったが、その際にも、分野同士での重複は避けて配置した。夜間主コースについても、開講可能枠すべて（金曜 1 枠は行事用として除く）を使って、できる限り重複を避けて配置した。なお、平成 26 年度の時間割も同様に作成されており、可能な限り改善されていた

達成年度（予定を含む）

今年度の時間割作成において、可能な限りの改善が達成できた。来年度以降も上記の留意点に配慮しながら、時間割作成を行って行く予定である。

改善事項

学部生の英語教育

改善計画

共通英語のカリキュラム改変に伴い、これまで 2 年次までの必修 4 科目 8 単位と選択 2 科目 4 単位までとなっていた英語科目が、能力と意欲のある学生については必修 2 科目 2 単位、学部指定履修科目 2 単位の他に 4 年次まで履修した 6 単位を教養科目の必要単位数に、またそれ以上に取得した場合には自由科目の一部として数えることができるようになった。学部として積極的な履修を勧める方策をとる。また、共通科目、専門科目を問わず、授業以外の場で、英語履修を促す学部生の集いの場を設ける。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋～平成 26 年度

改善状況

新入生にはガイダンスの際に、少しでも多くの英語選択科目を履修するように強く勧めた。今年度の履修状況を調査したところ、1 年生と 2 年生を合わせて、英語選択科目を学生一人当たり平均、社会学科 1.5、言語文化学科 1.3、法学科 1.4、経済学科 1.3 科目と、どの学科の学生も同じ程度に履修していることが分かった。これからも英語科目の履修を促していく。

国際交流協定締結校から訪問の教員による英語での授業も含め、英語による授業が増加し始めている。

授業以外での、英語履修を促す集いの場である English Café は今年度も実施され、毎回数名の留学生も参加するなど、充実度が増してきている。また、英語を用いるイベントの企画があり、意欲をもって積極的に学習しようとする学生を支援し、発表する機会を設けた。

達成年度（予定を含む）

平成 28 年度開始の「国際日本学プログラム」では英語による専門科目の授業を増大させることが決まっており、平成 27 年度中には骨格を決定する。

改善事項

学部生の初修外国語

改善計画

初修外国語で身に付けた力を実際に活かすため、短期留学などを積極的に勧める。留学体験者の報告会を開催するほか、授業外で留学生と触れ合う機会や、特定の外国語を使用することを義務づけたサロン（カフェ）の開設を行う。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋

改善状況

今年度もドイツ、フランスへの部局間交流協定校への学生派遣を行った。留学体験者の報告会については、リヨン大学・ボン大学から帰国した学生による体験談を聞く機会を設けた。昨年度は参加者が少なかったが、今年度は 20 名ほどの参加者があった。

English Café 以外に他の言語についても同様のカフェ（外国語を用いて語らう場）を計画しているが、今年度は実施できなかった。

達成年度（予定を含む）

平成 27 年度以降も引き続き初修外国語教育の充実に努め、英語圏以外の国への留学を推進すると共に、英語以外のカフェ設立を検討する。

改善事項

学部生の国際的視野（異文化理解・グローバルな問題の理解）

改善計画

短期・長期留学をしやすい体制を整える（短期留学の単位化、長期私費留学の単位認定、国際インターンシップなどの開設可能性を探る）。部局間交流協定校から帰国した日本人学生の報告会を開催する（また、帰国学生には留学経験を報告書にまとめてもらい、留学志望の学生に随時、配布する）。

そのほか、日本人学生と海外からの留学生との交流の機会を増やすべく、国際交流センターとも積極的に連携していく。また、国際的視野の涵養を含む学科横断的科目パッケージの検討を始める。

実施時期（予定を含む）：平成 25 年秋

改善状況

<p>留学に関しては、25年度：短期(3ヶ月以内)34名、中長期(3ヶ月以上)23名、期間不明6名に対し、26年度：短期16名、中長期39名であった。新たに設けられた「海外研修Ⅰ・Ⅱ」に関しては参加者がいなかった。</p>
<p>達成年度(予定を含む)</p>
<p>平成28年度開始予定の「国際日本学プログラム」開始にあたっては、海外研修の単位認定を増やす予定であり、平成27年度中には骨格を決定する。</p>

<p>改善事項</p>
<p>学部生のリーダーシップ</p>
<p>改善計画</p>
<p>フィールドワーク関連の授業で多様な人と会う機会を多くしたり、授業内でプレゼンテーションを行う機会を増やす。また、市民を対象とした会合・催しでの発表の機会を積極的に作るよう支援する。</p>
<p>実施時期(予定を含む)：平成25年秋</p>
<p>改善状況</p>
<p>社会学科では1年次から始まるフィールドワーク教育とその成果のプレゼンテーション教育を継続、発展している。また、1年生のコース決定に際して、3年生によるコース別の学習成果発表を取り入れ、学生による1年生教育の機会としている。</p> <p>今年度の学部共通科目「人文社会科学の課題と探究Ⅱ」(法学科・経済学科担当)においては、格差・貧困や労働、性の問題といった社会的関心事となっている個々のテーマを取りあげ、それらに一般的な法学、経済学がそれぞれどのようにアプローチするかを法学科、経済学科の教員がレクチャーした後、レクチャーに対する学生からのコメントペーパー提出とそれに対する教員のフィードバックを経て、法経二名ずつ計四名の教員がリードしながら全学生参加型のディスカッションを行う、という形式で授業が展開された。</p> <p>その他、教員と学生が協力して企画・運営する英語詩の朗読のイベントを行い、学習成果の発表の機会とするとともに、学生の企画力、統率力、発信力を発展させた。このイベントには、3学科と研究科から、14名の学生が自主的に参加した。</p>
<p>達成年度(予定を含む)</p>
<p>平成27年度も引き続きさまざまな試みを行う。</p>

<p>改善事項</p>
<p>教職の学級・学校のマネジメント能力</p>
<p>改善計画</p>

「生徒指導」（教職科目、大学教育センター教員担当）の講義内容を見直すことで、学級・学校のマネジメントに関わる実践的能力の習得を目指す。

実施時期（予定を含む）：平成 26 年度

改善状況

教職科目に関する事項は、人文社会科学部として改善できる内容ではなく、平成 27 年度に全学教育基盤機構の中に設置される全学教職センターの所掌事項である。人文社会科学部としても、むろん議論に参加する。

達成年度（予定を含む）

平成 27 年度